

『モジヨ×コン mojo complex』

(登場人物)

森山葵 (27)・・・笠松町役場の非常勤職員。

森山桜 (31)・・・葵の姉。弁護士。

森山紅葉 (23)・・・葵の妹。大学院生。

森山椿 (19)・・・同。浪人生

別所孝之 (35)・・・笠松町役場結婚支援事業課係長、葵の上司

新庄晴臣 (26)・・・森山家の近所に住む幼馴染。

江成礼明 (24)・・・葵の同僚

天草俊哉 (32)

調布満 (28)

大門三津五郎 (45)

藤田アンリ (21)

森山修 (56)・・・姉妹の叔父

高階玲子 (42)・・・叔父の再婚相手？

姫野紫子 (26)・・・別所の婚約者

\*

斉藤

(舞台)

舞台中央に丸い大きなテーブル。その奥に壇。

プロローグ

中央にいる森山葵、桜、紅葉、椿たち四人。  
そこにトランプを持った斉藤が現れる。

斉藤　　こんにちは。無事四人揃いましたね。

四人　　（笑顔でうなづく）

斉藤　　じゃ、この四人の中から、トランプでヒロインを決めます。

四人　　えー？！

斉藤　　スピーディに決めるために、ババ抜きで。（トランプを渡し）  
じゃ、決まったら教えてください（去る）

しぶしぶババ抜きを始める四人。

桜　　大体、なんでヒロインをババ抜きで決めるかね？

紅葉　　仕方ない、演出が決められないって言うんだから。

葵　　昔何かの劇でもこうやってトランプで決めてた気がする。

椿　　リスペクトだよ、リスペクト！

桜　　モジヨのヒロインなんて誰がやるっていうんだよ。

葵　　モジヨ？

紅葉　　喪服の喪に、女で、喪女。

椿　　あー知ってる！ モテない女性って意味だよな、喪女って。

桜　　こじらせ女子と何が違うの？

紅葉　　こじらせは……見栄張ってる感じがする。過去にすがって痛さ  
自慢してるといふか。

椿　　でもモテないだけよりマシじゃね？

ババ2枚を含めた全てのカードが配られる。雨の音。

桜 やだ椿、配る前にババ1枚抜かないと！

椿 いーじゃん、別のカード捨てる時に使えるし。

紅葉 それはポーカーが大富豪。

葵 じゃ、適当に1枚抜けば？ ババだったまにはペアになってもいいじゃん。

椿 ねー、なんでこれババって言うの？ 変なおじさんだよ？

紅葉 (眼鏡を直し) ババ抜き起源はオールドメイド。適齢期を過ぎた未婚の女性、つまり我々みたいな喪女という意味だ。

桜 ちよつと、あたしは結婚したわよ！ 1年間だけど……。

椿 こじらせか。

葵 じゃあ、今風に言うのと喪女抜きて事なんだ。雨の日曜に家族とランプしかする事が無いんじゃ、喪女認定されてもしょうがないよね。

紅葉 プレステが壊れたのだから致し方ない。

椿 でもさ、ジョーカーは切り札なんでしょ？ オールマイティだ

紅葉 し(自分の手札を適当に1枚捨てる)ほんとにダメな札なの？ だからそれはババ抜きのルールじゃない。

桜 ちよつと、勝手に自分の捨てないでよ！

椿 どうせまた葵ちゃんが負けるし。

紅葉 どれがババかわからないのもまた一興。

葵 (札を引いてにやりとする) いやいや、これで私は勝ちますよ！

ジョーカーのペアで上がり！

飛び上がってジョーカーを2枚叩き付けようとする葵。

斉藤登場。

斉藤 あ、言い忘れたけど、ジョーカー引いた人がヒロインだからね。

(去る)

桜・椿・紅葉 (葵を見る)

葵 え？ え？

桜・椿・紅葉 (葵を哀れっぽい感じで見ながら去ってゆく)

葵 寂然としな―い！

暗転。葵にスポットライト。

葵

あの日も雨だった。お父さんとお母さんが死んだ日もこうして、  
ババ抜きをした。電話に出たのは、ババを引いた私。もう誰  
もいなくならないように、いつも雨の日曜は、うちは誰も外に  
出ない。

雨の音、F・O

第一幕 第一場

葵の歩いて行く先に、「笠松町役場 結婚支援事業課」の看板と、その下  
に「笠松町・脱出ゲーム町コン参加者募集」というポスターが貼ってあ  
る。

デスクが3つ。その一つに江成礼明が座って、パンをかじっている。

葵、その隣、恐竜のぬいぐるみの置いてない方に腰かけ弁当を広げる。

江成

(葵に) え、じゃあそのババ抜き勝負で。

葵 はい、負けました……。

江成

一回で諦めたら駄目でしよう。

葵

それが、十回勝負で、十回とも。

江成

(肩を落とす) そんな、あと一週間なんだぜ〜!!

葵

普通こういうのって、女性の方が多いですよ。

江成

みんな都会の大きな街コンとかに行っちゃまうんだよな。くっそ

〜!

そこに、別所孝之が入ってくる。慌てて昼食を片付け始める葵たち。

別所

あ、大丈夫、気にしないで(にっこりしながら席に着く)

江成

係長、来週の街コンの参加者はもうちょっと待ってください!

別所

え、あ、うん。しょうがないね〜。

江成

しょうがないねーって、係長、他人事みたいに!

別所

いやあ、ごめん、ごめん。(頭を掻く)

江成

前回の男性側は、引き続き申し込んでくれましたけどね〜。

江成、机から書類を取り出しめぐり始める。

脇に天草俊哉、調布満、大門三津五郎、藤田アンリが出て来る。

江成

社長も医者もいるんですけど、これはどう見ても元ヤン、

これは死んだ魚の目してる、これは頭髪が薄い、第一印象

だけで残念感この上ないメンツばかりですもんね〜。

天草ら、退場。

葵

すみません、私の企画が至らないばかりに……!!

別所、ぬいぐるみを持って立ち上がり葵に近づく。

別所 いやいや、恐竜ツアーっていうのはいい企画だったよ。地元の名物だし、りゅうのすけも推していかないかね！

葵 (顔を背け) あ、ははい、そうですね！

江成 今回は流行りの脱出ゲームですし、絶対楽しめる内容になると思います！

別所 そうか、そうだよね！ みんな頑張ろう！

江成 そうですね、一応今回は、女性側にサクラを頼もうということになってまして……。

別所 え？ それは駄目でしょう！

江成 しかし、このままだと女性申込者0で、開催しても詐欺扱いされてしまいます。もう会場の方も押さえてしまったし、開催しないというわけにもいかず……。

葵 うち、姉と妹が独身なので、お願いして来てもらおうと思つて……。

江成 一応、サクラというわけじゃなくファミリー割で500円で。ほんとに？ 大丈夫なの？ (さらに葵に近づく)

葵 (書類で顔を隠し) え、えとそれは……ババ抜きで勝ったらやつてもいいと言われたんですが、私ババ抜き弱くて……でも、もう一度頼んでみます。

別所 そうか……。じゃあ、次は僕も頭下げてくださいに行くよ。

江成 俺も一緒に行くよ！

葵 ありがとうございます。あの……、じゃあ私、会場の打合せに行つて来ます！

別所 あ、その件なら先方に話通しておいたから。

葵 え？ でも、一応確認を……。

別所 うん、よろしくね。

江成 はーい、いってらー！

上着と荷物を持って出て行く葵。江成も机に向かい始める。  
葵にスポットライト。

葵

びっくりした、係長……あんなに間近に来られたら、静まれ  
心臓！（胸を押さえ首を振って）……ううん、意識しちやダメ  
ダメ！ だってあの人は……。

葵去って明転。

別所

僕って、もしかして嫌われてる？

江成

そんなことはないですよ。（小声）むしろ逆だろー。

別所

え？

江成

いえ何も。森山さん、張り切ってますねー。

別所

二年目で、もうすぐ正規採用だからね。

江成

前の勤め先、倒産したってほんとですか？

別所

うん、本人に非があるわけじゃないけど、そういう巡り合わせ  
の人もいるんだね。

江成

ババ抜きでも、ババばかり引いちやうんでしょうね。

別所の携帯が鳴る。

別所

（電話受けて、嬉しそうに）もしもし、紫子さん？ 職場には  
かけてこないでって……ああ、指輪、日曜ね。わかりましたよ。  
じゃあ、またね。（切る）

江成

彼女ですか？

別所

ていうか、結婚する予定。

江成

いいなあ、順風満帆っすね。

別所  
（笑って）そうかな。

トランプが1枚落ちていているのに気づく別所、それを拾う。

別所  
（江成にトランプを見せ）江成くん、トランプなんて持って来た？

江成  
いえー、たぶん森山さんのじゃないですか。（トランプよく見て）  
ババじゃないすか、意味深ですねえ、呪いかもですよ。

別所  
（苦笑）そういうの、ちょっとわからないなあ。

江成  
ですね、俺ら、女子じゃないですもんね。

別所、上着の胸ポケットにジョーカーを入れる。  
暗転。

第二場  
（四姉妹の実家、森山家。居酒屋の一階）

ソウルフルな音楽の中、森山修がテーブルでスポーツ新聞を読みながら  
一服している。

そこに葵の悲鳴と、四人姉妹の喧噪が聞こえてくる。

修  
なんだよ！ うるさいよおめえら朝っぱらから！ 起きたんな  
ら店手伝え！

パジャマ姿の椿が飛び込んでくる。

椿 修 椿 修

おっちゃん、警察！ いや救急車！  
どうした。

あおねえがおかしいの！

おかしいつつたらあれだろ、更年期の桜の方だろ。

桜出てくる。

桜 修 桜

誰が更年期だって？

そらおめえ、昨日も大酒かっくらって帰って来たじゃねえか、  
そんなだから旦那に愛想尽かされんだよ。弁護士さまが、聞いてあきれるわ。

何言ってるんだ、別れたのはこっちからだよ！

つかみ合いになりそうな修と桜を押さえる椿。紅葉出てくる。

椿 紅葉 修 桜  
紅葉 桜

もみちゃん、どうだった？

駄目だな、依然クローゼットに籠城中だ。

どうしたんだよ一体？

朝、起きて来たら鏡見て悲鳴ばっかしあげてるの。この、二十  
ン年間一緒にいた姉のあたしに向かって、君は誰だ！ とか  
口調もおかしくなってる。

ああん？

やはり薬師に見せた方がいいかもしれん。

医者って言ってよ、めんどくさい。

そこに、別所が現れる。慌てて顔を隠す紅葉。

別所　ごめんなさい！　ちゃんとゆうべ帰ったはずだったのに……。  
あんた、どちら様？

別所　やだ、間違えた！（咳払い）……か、笠松町役場結婚支援事業  
課の別所と申します。森山くんにはお世話に……なってますとい  
うか。

桜　……葵とこの、上司さん！

修　え？　そうなのか。こちらこそ、姪がお世話になってます。

別所　あの、ええと……実は葵さんに話がありました。

修　話？　今度にしてくれませんかね、うちは今取り込んでんだ。

別所　叔父ちゃ……ううん、森山さん、それがそういうわけにもいかな  
いんです、こちらも早急な話ですの。

修　そうは言っても、本人が閉じこもっちゃ、話のしようがないだ  
ろうが。

別所　閉じこもってる？

椿　あおねえ、起きてから様子がおかしいんです。

別所　椿ちゃん、お願いだから、ちよつと話をさせてくれない？

椿　いいですけど……（修や桜を見る）

別所　（普通に中に入ろうとする）

修　おいあんた、よそのうちにズケズケ上がっていくな。

別所　あ、す、すみません、お邪魔します。

別所、桜に連れられて去る。

椿　あおねえ、私の話まで職場でしてんの？

暗転。

隅の方でうずくまっている葵。別所と桜現れる。

桜 葵、あんたの職場の上司さんだよ。

葵 (顔を上げて) 嘘だ！

別所 も、森山くん……。

葵 どういうことだ、僕が僕に会いに来るなんて、わー！ (頭を抱える)

別所 (桜に) あの、二人きりで話したいんだけど……。

桜 わかりました (出て行きかけて) あんた、妹にちよっかい出し

たら承知しないよ！ (去る)

別所 係長、係長ですよね？ 落ち着いて下さい、私です。

葵 (両手を下ろし) 森山くん……なのか？ (クローゼットを開けようとする)

別所 (それを止めて) ああー、ちょっと待って下さい、私もまだ混乱してるので、まず深呼吸……。

深呼吸する二人。葵、クローゼットを開けるマイム。

葵・別所 わっ！！ (飛び退いてこわごわ互いに近づき、確かめるように

眺め合う)

葵 それは僕の体だね、間違いない。

別所 そっちも、私の体です。

葵 つまり、あれってこと？

別所 あれのようにすね……。

葵 なんて！

別所 こっちが訊きたいです。

葵 ここは、森山くんのご実家だね？ 確かゆうべ僕は普通に帰宅して寝たはずだ。

別所 私もです。魔法みたい……。

葵 うーん、自分が女言葉で喋ってるのがとても気持ち悪い。

別所 こ、こっちだって朝すごく苦労したんです！！

向き合って座る二人。

葵 しかしどうしたものか、事情話しても二人して頭がおかしくな  
ったと思われるだけだな。

別所 それよりも街コンです！ 開催できなくなったら……。

葵 しばらく、ここにご厄介になることにしよう。いつ元に戻るか  
わからないことだし。

別所 え？

葵 元々、君のお姉さんたちにはご協力お願いに伺うつもりだった  
んだ。そうだ、君もここで暮らしたらいい！

桜・椿登場。葵たちの様子を伺う。

別所 ええ？

葵 元に戻るまで、なるべく一緒に行動しておいた方がいいと思う  
んだ。街コンも近いことだし。

別所 そんなの、無理です。

葵 僕が君の家、じゃない僕の家に行ってもいいけど……ああだめだ、  
まだ混乱するな。

別所 うち、姉妹ばかりだし……叔父が……。

葵 それも含めて、お話に行こう。

別所 えー……。

立ち上がる葵。ドアを開けるマイム。桜たちを見つめる。

桜  
あ、あ、お話終わったの？ お茶でも出そうかと思って……。  
別所  
いや、お茶なんて。  
葵  
お茶なら下でもらいます。こちらからも、お話があるので。  
椿  
え？  
別所  
あ、あの、今日は街コンのことで改めてお願いに上がりました。  
桜  
もう終わった話でしょ？  
葵  
いえ、もう一度わたくし……係長が直接お話したいと。  
別所  
えっ？

暗転。

#### 第四場 (森山家一階)

並んで座った葵と別所、囲むように森山家姉妹（紅葉は面着用）と修。

修  
おい、なんだよ。俺は関係ないだろ。  
紅葉  
提案を受けなければうちに居座ると言っている。  
修  
何だと、警察呼ぶぞ。  
別所  
ま、待って！ そうじゃないんです。  
葵  
穩便に聞いて下さい。私たちにもう少し説明するお時間をいただきます。  
桜  
何の説明よ。  
葵  
この姉妹は昔から男っ気がなくて、男性との出会いもない、  
ですよね？  
別所  
そう……（椿に睨まれ）と聞いています。

葵 そんな森山家の姉妹に、結婚支援事業課は将来のお相手と知り合うチャンスを提供できる。サクラではなく、そう考えてほしいんです。

桜 は？ 私たち、そんなものは必要としておりません。（スマホをかざし）私の人生はこの液晶の中で仲間とともに敵を討ち果たし、新たな歴史を作ることにある。

葵 （別所に耳打ち）なんで面をつけてるんですか？

別所 親しくない他人には顔を見られたくないんです。

椿 私も、友達と一緒にロリータしてる方が楽しいもん。

別所 そ、そうだよね、やっぱり……。 （引き下がろうとする）

葵 実家でいつまでもままたごみたいなこと続けて、誇らしいですか？ 中学生ならまだしも。

椿 ？！ ひどい、あおねえのばか！（奥へ走り去る）

別所 あっ……。 （椿を追おうとするが葵に見られて引き下がる）

桜 大体ね、今の時代結婚なんてする方が負け組なのよ。ただのカネとカオの交換。もしくは家政婦兼慰安婦とATM。

修 ま、結婚したら負けかは知らんが、婚活してる奴は確実に負け組だな。

桜 （修に）いーからおっちゃんは黙ってな！ 三次元の男に、理想も夢もあつたもんじゃない。どうせこんな、オヤジばっかりだからね。

紅葉 二次元と二・五次元で満たされれば、三次元など必要ない。

葵 （別所に）次元とは……。

別所 二次元は漫画やゲームの人物、二・五次元は主にアイドルとかの芸能人です。

修 何だとおめえら、誰にここまで大きくしてもらったと思ってるだ！

桜 じーちゃんとばーちゃんがいました、十年前まで。

葵 あ、あの、三次元にだって、素敵な男性はいます。

別所 そうです、好きな人、大切な人がいないなんていうのは、まだその人と出会ってないだけなんです。人には誰だって欠点がありますし、それを補い合うために相手が必要なのです。

失礼ながらこの姉妹は、大きな誤解をされている。本当に残念で勿体ない事です。

葵、おまえ今日はよくしゃべるな。

桜、しかも自分ちのこと、ここだって。

葵、いや、これは、別所が言っていたことです。(別所に)ね！

別所、あ、は、はい……。

葵、彼が裏表のない人間なのは私が保証しますが、それを感じていただくためにも、別所はしばらくこちらに数日置いてほしいと。

別所、奥に使ってない部屋がある……と聞いたので。お店もお手伝いします。

葵、生身の一男性の誠意を見て欲しいんです。決して下心から言ってるわけじゃありません。

修、何言ってるんだ、信用できるか。

別所、……じゃ、ババ抜きで決めましょうか。

修、なに？

葵、あ、そうしよう。それがいい。

桜、何よ、あんたいつも負けんじやない。

別所、だからって、今日負けるとは限らない。葵さんに賭けます。

修、……よし、そこまで言ってるんだ、一度くらい勝負してみるか。

桜、ええ？！

別所、おじちゃ、いえ森山さん！

葵、ありがとうございます。

修、係長さんだっけ？ 葵のこと買ってくれてるみたいだし。なんか見てると初めて会った気がしないっーか、なかなか見所ありそうだしな。

桜、またそんな適当なこと言って！

修、(別所に) こう見えても、俺昔はR & Bのバンドやってたんだ。

葵、うん、あんたにヤソウルを感じるぜ。

修、そんな、恐縮です。

葵、え？

(笑顔で首を振る)

別所  
へ、へえー、そうなんですネ！ すごいなー、はっはっは。  
修 そうよ。じゃ、おっちゃんがカード切って……。

高階玲子、登場。

玲子  
こんにちは。

修 (慌ててトランプ置く) れ、玲子さん？

玲子 開店前かと思つて、遊びに来ちゃつた。

桜 おっちゃん、誰？

修 え、えと、この人はなあ。

玲子 初めまして、修さんの嫁候補、玲子です。

桜 嫁候補？！

修 や、やだ玲子さん！

玲子 あれ、まだ気が早かつたかしら。

修 ちよ、ちよっと出て来るわ。(玲子に) 仕度して来るんで、待ってて。

玲子 (うなづく)

修、奥へ。玲子、葵たちのそばに近寄る。

玲子 あら。(辺りを嗅ぎ回つて) なんかここ、魔法の匂いがする。

葵・別所 え？！

桜 葵。(葵の腕を引いて首を振る)

紅葉 今は二十一世紀、科学の時代。

玲子 魔法はずーっと残ってるわよ、私だってちよっと使えるもの。  
この中の誰かは、別人が化けてたりして。

葵・別所 (揃つて緊張する)

玲子 (テーブルの上を見て) あら、トランプ？ 修さん来る間、占っ

てあげましようか。占い師なの、私。

(感心したように) へえ〜。

別所

いえ、結構です。私たち、超現実的に生きてますので。

桜

あら、そうなの？(トランプを繰りながら) 修さん悩んでたわよ、姪っ子が揃いも揃って浮世離れしてて、結婚もせずに出て行きそうにないって。

玲子

なっ……！

桜

長女の桜さんは、バリバリのやり手弁護士だけど酒乱が原因で離婚して。

玲子

……あんの、くそジジイ！

別所

次女の葵さんは、いい子なんだけど、消極的で、恐竜オタクの干物女子だったかな？

玲子

そんなっ……！

紅葉

三女の紅葉ちゃんは、歴史もののソーシャルゲームにはまって、言葉遣いまで時代劇になっちゃって学校にも行ってないって。

玲子

そ、そのようなことは断じてない！

葵

四女の椿ちゃんは……ないわね。このトランプ、ジョーカーが1枚足りない。

別所

ジョーカー？

玲子

え？ そんなはずは……。

修、ぱりつと着替えて戻って来る。玲子以外は呆気に取られている。

修

お待たせ。

玲子

あら、男前！ じゃあみなさん、ちよつと叔父さんをお借りしますね。

修

店番頼んだぜ。

楽しげに出て行く修と玲子。

桜　くっそー！　爆発しろリア充！  
まさか叔父貴殿が孔明の毘にかかるとは……。  
別所　（葵の袖を引いて）我々も今日は出直しましょう。  
葵　え？　な、なんでですか？  
別所　帰り道わからないので、送ってください！　（小声で）ややく  
しくなってきたんで外で一度説明します。

立ち上がって出口に向かう葵と別所。

桜　葵、どこ行くの？！  
葵　どこって係長をお見送りに……。  
桜　すぐ戻ってきてよ！　姉妹会議開くから。  
葵　（別所に）姉妹会議？  
別所　いつものことです。

暗転。

### 第五場（森山家一階）

テーブルを囲む桜、紅葉、椿。紅葉は面を外してスマホをいじっている。

桜　さて、じゃあ姉妹会議を始めます。

隣に葵と別所、スポットライト。葵、歩いてテーブルにつく。

別所

うちは、何かあったらいつも姉妹会議をやるんです。仕切るの  
は桜ねえちゃん。

葵

議題は？ 街コンですか？

桜

何言ってるの、おっちゃんのことじゃ決まってるでしょ。

椿

おっちゃん、結婚しちゃうの？

紅葉

(スマホをいじりつつ) そう先走るでない、椿。

桜

もみ、スマホはしまう。

紅葉

今しばし、ちょうど川中島の闘いが……。

別所

桜ねえちゃんにはあんまり逆らわないでくださいね。

葵

いい大人なんだから、本人に自由にさせてあげれば。

椿

そういうわけにはいかないの。

紅葉

とりあえず、反対する方向で。

桜

当然です。

葵

どうして？

桜

だって、結婚したらうちに住むんでしょ？ その人。

椿

いやーっ、この家に他人が入って来るなんて！

葵

だったら、独立すればいいじゃない。

桜・紅葉・椿  
(固まる)

別所

あ、だから、逆らわないで、って……。 (遮られそのまま様子を  
窺う)

葵

お姉さん仕事してるんだし、一人暮らしできるでしょ。

椿

あおねえ！

紅葉

桜はうちの黒柱、そんな事はありません。

葵

でもいつかは出て行くでしょ？ 結婚して。だから、街コンで  
相手を見つけてみましょう、お姉さん。

桜・紅葉・椿

紅葉

！？

桜

葵、それは……。

椿

(立ち上がって葵の襟元を掴む) あんた、私にそれ言うか？  
わ、さくねえ、ストップ！

葵

え、えと…… (別所の方を見る)

別所

さっき聞いたでしょ、桜ねえちゃんは出戻りして仕事一筋なん

ですってば！

(はっとして口元を隠す)

……もういい！ そりゃ業績上げたいかもしれないけど、いくらあんたが頑張ったって、あの上司はあんたの物にはならないんだからね！

えっ？

(財布を持って飛び出して行く)

(桜に見つからないよう慌てて隅に隠れる)

ちよっと、あおねえひどい！

ああ、今日の葵は異常だ。

いや、だって……。

うちらは喪女同士、姉妹仲良くずっと暮らすって約束したじゃない！

……モジヨ？

ロリータ服に身を包んだ晴臣が登場。

晴臣

こんちは。

椿

あ、ハル！

紅葉

どうした。

晴臣

うん、さっき桜さんに飲み行ってくつてメールきたから寄ったんだけど、入れ違いだった？

葵

(黙って晴臣を観察している)

晴臣

何？ 葵ちゃん、何か変だよ？

葵

え、な、何がでしょう。

椿

変と言えば、あそこに、まだいるんだけど。(別所を指差す)

一同

(隠れてるつもりで別所を見る)

晴臣

誰？ ストーカー？ 俺に用があるんなら、表で話つけてやんよ！ (別所に詰め寄る)

別所

ち、違うよハル、私は……。

晴臣　　なんで俺の名前知ってんだよ、やっぱストーリーカーか！  
別所　　いや、その……。

葵　　（別所を庇うように前に立つ）暴力はやめたまえ！

晴臣　　はあ？

別所　　係長！

椿　　はあ？

葵・別所　　（しまったというように見つめ合う）

紅葉　　そろそろ、真実を話す時が来たのではないか？

一同、紅葉を見る。

暗転。

## 第二幕 第一場（居酒屋「森山家」一階）

舞台隅の方で酒をあおる桜と晴臣にスポットライト。

桜　　ふん！

晴臣　　あの大人しい葵ちゃんがねえ。

桜　　あの子はね、いっつも私の後ろに隠れてたの。恐竜好きで、

小2の時、夏休みの自由研究で恐竜の発表したんだ。

桜さんも俺も一緒に近所に化石発掘も見に行ったよね。

あの時は、クラス中のみんながすごいって言ってくれたって。

なのに、中学に上がったら急に女子はおしゃれや恋愛、男子は

ゲームやスポーツの話ばかりで、いつの間にか誰とも話せな

くなってる。ほんと鈍臭いんだよね。だから、私が紅葉や椿と

四人でいろいろ話を振ったり遊んだりやってきた。紅葉もひき

こもりがちだし、椿も口悪いから学校だと孤立しちゃったり。

晴臣　　修さんも、そんな桜さんたちのことずっと見守ってくれたん

だよね。

桜 えー？ おっちゃんは、別にのらくらじーちゃんの店やってるだけよ。赤字ギリギリなのにね。

晴臣 だから、働きに出ても良かったけど、姪っ子四人が心配だったんだよ。

桜 んなわけではないでしょ！ 単にぐうたらなだけよ！

晴臣 そうかな。でも結婚はしようと思えばできたんじゃない？

桜 若い頃、修さん結構イケてたじゃん。

晴臣 え……？ そうなのかなあ、そういえば昔は彼女いたけど。

桜 だってご両親のあと、十年したらおじいちゃんおばあちゃんも相次いで亡くなって。その時も桜さん大学辞めて働かなくてもいいって言われたんでしょ？

桜 うん、椿まだ小学生だったから……。おっちゃんが……。(考え込む)

晴臣 葵ちゃんはさ、家族離れしようとしてるのかもよ。

桜 え？

晴臣 悪い意味じゃなくて、ほら、乳離れみたいなもん。なんていうか、家族にいつまでも甘えて生きてけるほど人生甘くないだろ。おじさんも自由にさせてあげたいって、そういうことなのかもよ。

桜 ……葵…おっちゃん……。 (寝始める)

晴臣 桜さん？ そうだ、葵ちゃんのこと……。ま、あとでいいか。

スポットライト消える。

舞台中央。葵、別所、紅葉(面着用)、椿がテーブルでババ抜きをしている。それを見ている修と玲子。

ババ抜きは葵と別所の二人が残り、葵が手札を全部捨てる。

葵 上がり！

別所 ああ〜！（卓上に突っ伏す）

椿 嘘……。十回ともババ引いてない？

別所 (ジョーカーを見せて) だから、ね？

修 (紅葉に) 中身が入れ替わってるだと？

紅葉 ハルも左様と。面がなくても平気なのでおかしいとは思って

いた。(スマホを取り出しじり始める)

椿 そういえば、つけてなかったね。

葵 あの、ハルさんってさっきの人……ですよ。

椿 近所に住んでるあおねえの後輩で私のロリータ仲間！ よく

知ってるでしょ！

別所 うん、知ってる。

椿 ああ、もう、全然慣れないんですけど！

玲子 やっぱりね、そんな匂いがしたもの。

椿 (胡散臭そうに) この人も何なの？

玲子 義理の叔母さん候補の占い師です。

椿 はあ？

修 玲子さん、これからの話はまた、内々のことなんで……。

玲子 そっか、そうよね。トランプのジョーカー、もう1枚は見つ

かった？

別所 何の関係があるんですか？

玲子 ええ、ごくたまにね、ジョーカーが意地悪っていうか、魔法を

使うことがあるのよ。

葵 やっぱり！(別所に) 君、役場に間違えて持って来てただろう。

別所 え？

葵 よし、ジョーカーは僕の家にある。(立ち上がり去ろうとする)

玲子 いいえ、ジョーカーの魔法に勝つためには、元に戻すだけじゃ

だめよ。もう一つ、真実の愛が必要になる。

葵 (足を停めて) 真実の？

別所 愛……？

江成登場。

江成 係長、ひどいっすよ、さっきからずっと電話してたのに！

葵 あああ、ごめんね。(別所に) 僕の電話は？

江成 いや、森山さんじゃなくて。

別所 (ポケットから携帯を出して渡す) すみません、メールは返したんですけど。

葵 (携帯を確認して) いいよ、持ってて。(別所に返す)

江成 説得交渉なら俺も一緒に行くって言いましたよね？

葵 そうでした、そうでした！

別所 それで追いかけてきたの？

江成 違います、実は街コンの会場、改装工事してたら化石が出て来

たらしくて、当分使えなくなっちゃったんです！

葵・別所 ええーっ！！

膝をつく葵、それを別所が支える。

葵 どうすれば……。

玲子 街コンの企画をされてる会社なの？ ちょうどいいじゃない！

葵 え？ いや、役場なんですけど……。

玲子 このお店を会場にしちゃえば！ 無料で私の占い付き。真実の

愛が生まれるかもしれないわ！ (修に) ねえ、どうかしら？

修 え？ そ、そうだな……。

玲子 私たちが出会ったのもシニア合コンだったじゃない。

姉妹 (口々に) ええっ？

修 玲子さん！

玲子 ね、私たちにも協力させて。みんなで幸せを掴みましょうよ！

修 ん〜……そうだな、いいんじゃないか？

椿 反対！

別所 椿ちゃん……。

椿 私、そんなの出ないからね！ 街コンなんて、不潔な大人の

するような事、私は嫌だから！ (奥に去ろうとする)

修 椿よう、そんなこと言って、葵が元に戻れなくてもおめえは  
いいってのか、え？

椿 (立ち止まり) それとこれとは関係ないじゃん！

修 おめえ、今までの話よく聞いてたか？ 入れ替わりなんて普通  
ありえないし、元に戻る方法もわかんないんだよ。でもな、  
わかんないならやれることは何でもやってみなきゃいけない  
だろうが！

別所 椿ちゃん、改めて、私からもお願い！

葵 僕からも、お願いします。

別所 もみちゃんも。

紅葉 (スマホから顔を上げる)

葵・別所 (頭を下げる)

紅葉 家から出て第三者にまみえることは不可能。

別所 (頭を上げて) 家から出なくていいの、うちに来てもらうんだか  
ら。

紅葉 ……左様か。(スマホに戻る)

修 もみ、いい加減ネトゲやめろ。廃人になるぞ。

紅葉 叔父貴殿、これはソシヤゲーと申す。

修 ネットゲと何が違うんだよ！

千鳥足の桜、晴臣に支えられながら登場。

桜 そうよね、何が違うんだっつーの！ バツイチでも独身は  
独身じゃん！

一同 (苦笑いする)

修 桜には後で誰か説明しとけよ。

江成 す、すみません！ 誰か僕にも説明して下さい！

暗転。

第二場（森山家外）

晴臣と別所。

別所

あー、でもハルに話聞いてもらえて助かった！

晴臣

うん、俺一緒じゃないと桜さん説得できなかつたかもね。

別所

ほんとありがとうね！

晴臣

今来た人が見たらオネエ系の話と思われるかな。

別所

何のこと？

晴臣

いやいや。準備の方は順調？

別所

それが、考えたら女性もう一人足りないんだよね、私スタッフ

晴臣

だし、てか体は係長だし……。

別所

じゃあ、俺も参加していい？

晴臣

足りないの女性だよ？

別所

だってサクラなんだろ？ この格好なら大丈夫じゃない？

晴臣

それは流石にまずいよ。

別所

頼むよー葵。

晴臣

ハルにだって何のメリットもなくなる？

別所

メリットならあるよ。桜さんに、変な虫が付かないように見張

晴臣

ってられる！

別所

えっ。

晴臣

なんかダメ？（スカートをひらひらさせる）

別所

ロリータは一般受けが……。

晴臣

それでいんだって！

別所

いいのかな。女性陣のプロデュースって、玲子さんだったよね？

晴臣

うん、あの人なかなか良い事言うよ。せっかくなんだから自分

別所

の好きな服着て楽しみなさいって。あと、『勝負服っていうのは、

晴臣

戦いに行くための戦闘服なのよ』って言ったらみちちゃんが

別所

めっちゃ燃えてきちゃって。

別所 嫌な予感がする……。

晴臣 (マイク取り出し) 皆さん、お待たせしました！ これより笠松町MGC、モテないガールズコレクションを開催いたします！ エントリーナンバー1、森山家四女、椿ちゃん！

椿登場。舞台中央前まで出て来て歩き回り、ポーズを取る。

晴臣 大好きなロリータに、ミリタリー調をミックスした甘辛スタイルでエレガントに決めています。

椿 趣味は衣装作りと、V系の追っかけてます☆

(苦笑い)

晴臣 エントリーナンバー2、森山家三女、紅葉ちゃん！

狐の面をかぶり、新選組の隊服を着た紅葉が登場。別所、頭を抱える。

紅葉 (ぎくしゃくと歩き始める)

別所 もみちゃん、それはないでしょ！

紅葉 本当なら真田幸村様の甲冑が良かったのだが、歩きにくくてな。おうちなんだしお面は外してよ！

紅葉 面は法律で着用が義務づけられている。

別所 そんな法律ない！

紅葉 コミュ障の保護の為には必要な法律だ。

椿 いいじゃん、土方歳三みたいよもみちゃん！

紅葉 趣味は夜の散歩と、戦国武将の薄い本を……。

別所 あああ、それはダメ言っちゃ！

晴臣 (割り込んで) さあどんどん行くよ、エントリーナンバー3、森山家長女は正義の味方！

別所 まさか！

晴臣　　みんなで呼んでね、愛と正義の魔法戦士、  
紅葉・椿　　プリティサクラ！！

魔法少女のコスプレを着た桜が登場。ノリノリでポーズを決める。

桜　　普段は弁護士、休みの日は有明で魔法戦士やっています☆  
別所　　うわあああああ。  
椿　　さくねえ、「プリティのぞみ」には後ろに羽なんてついてなかったよ？

紅葉　　夏から10キロ増えたのだ、桜は。

桜　　うっさいわねえ、最近着てなかったから後ろ止めてあんの！

（別所に）何突っ伏してるのよ。

別所　　他の服無かったの？！

桜　　あとはいつもの地味なスーツしかないわよ。

別所　　それでいいじゃん！ コミケ行くんじゃないんだからね！

桜　　当たり前よ、今はコミケだって行ってから着替えるんじゃない。

別所　　もー、ハルがついておきながらなんでこんな事に……。

晴臣　　ではでは、最後に、プロデューサーである高階玲子さん、

そして森山家次女の葵さん！

怪しいアラビア風の衣装を着た玲子と、恐竜の着ぐるみを着た葵が登場。  
喝采する桜達姉妹。

別所　　あなたたちまで！

玲子　　だって、占い師が普通の格好してちゃつままないでしょ？

別所　　てか係長！！ それは私の秘密の……。

葵　　いやあ、何だか楽しそうだったからね、葵さんは何か持ってる

ないのか訊いてみたら、お姉さん達が出てくれたんだ。

別所

(桜に) なんで教えたの!

桜

着てるのは葵の体だから問題ないでしょ。

葵

これ自分で作ったの? このフィット感! まさかりゅうのすけの中に入れるなんて、感激だよ!

別所

係長にだけは……。 (膝をついてうなだれる)

紅葉

気に入っておられるようだが?

葵

とりあえず、君は江成くんと一緒に、男性陣の方の改造をやってくれる?

別所

え? (顔上げて葵を見る)

葵

(近寄って別所を覗き込む) 女性がサクラとはいえ、彼らに自信を持ってもらって次の出会いを呼び込むのも、僕たちの仕事でしょ。

別所

係長……!

葵

やっぱ、仕事には遣り甲斐と誇りを持たないとね。

別所

はい! 私も、こんな姿だけど、頑張ります!

手を握り合う葵と別所。

椿

あおねえたち何やってんの?

紅葉

気にするな、主と家来が使命で固く結ばれたのだ。

外野に気づき慌てて手を離す二人。

暗転。

### 第三場 (外)

別所だけ残っている。そこに、書類を持った江成がやって来る。

江成

えと……森山さんなんだよね？

別所

はい。

江成

（書類を一枚ずつ別所に渡す）彼らにちょっとアドバイスをお願いしたいんだ。

天草俊哉、調布満、大門三津五郎、藤田アンリが出て来る。

江成は彼らに帽子をかぶせたり、シャツの裾をズボンから出したりする。

江成

女性目線で、身だしなみとか気をつける言動とか。どう？

別所

あの、考えたらうちの姉妹は現実世界の男性には元々興味がないので、見た目にはこだわらないと思うんですけど……。

江成

いやいや、でも人は見た目が九割ってね！ 調布さんなんて、街で肩とかぶつかったらもうおしまいだな。

調布

えっとー、俺はヨメが出て行って、ちびと二人で地元に戻ってきました。実家の工務店で働いてます。

別所

金髪は怖がるので、染めてもらった方がいいかも。

江成

天草さんなんて見た目そこそこののに、目が死んでるのはどうしようもないな。

天草

……。

別所

（天草を見て）この人、高校の先輩です。実家大きな楽器屋で、あの頃はバンドとかやってて学校でも有名人だったんですけど。

江成

でも今、無職ってなってるよ。無職かー。なんで家業継いでるって書かないんだろ？

別所

経営が別の人に移っちゃって、会社の名前も変わったって聞きました。

江成

それでこんな生きるべきか死ぬべきかみたいなの顔になっちゃった？ で、藤田さんは、モデルって書いてあるけど、実際地元のスーパーのチラシモデルだからね。

藤田

ハーフですが、今まで一度も彼女いたことありません。僕なん

てどうせ……。

江成

どっかで聞いたようなネガティブオーラ満載だな。

別所

体型とか雰囲気日本人離れしてて、少女漫画ぽくて需要あり

そうですけどね……。

江成

で、一番の問題はこの人だよこの人。

別所

は、はあ。

江成

代々医者一家なんだけど……、理想だけは高いんだよなあ。

大門

別に高望みしてるわけじゃないんです、ただちよっと、おとなしめの、地味で、黒髪の、家庭的な雰囲気のある、可愛らしい雰囲気の子が、俺のこと好きになってくれないかなって思ってるだけで。あ、あと絶対領域は必須ですね！

江成

十分高望みだっつての！

別所

すぐ下の妹は、料理も裁縫も活け花もできるんですけどね。

江成

すごいじゃん。

別所

ただあの子の理想は歴史上にしかないから、こういう魔法使えそうなタイプは絶対話合いませんね……。

江成

魔法？

別所

いえ、何でもないです。(調布に帽子をかぶせる)

別所の携帯が鳴る。

別所

(携帯を取り出し) 誰、姫野紫子って。

江成

係長の婚約者だよ！ 出て。

別所

ええっ。……じゃ、出るのやめます。

江成

出た方がいいって。

別所

なんでですか？

江成

どうせまたすぐかかってくるから。

別所

えー。(電話に出る) もしもし、へ、別所です。

舞台端の紫子にスポットライト。

紫子　もしもし、孝之さん？　今日はご一緒に指輪を見に行く日じゃありませんでしたこと？

別所　え？　し、知りませんよそんなこと。

江成　（小声で）バカーッ。

紫子　ひどーい、私との約束、お忘れになったんですか。

別所　すみません、今仕事中で、また後で掛け直します。

紫子　嘘です。本当は今、近くにいるんですの。

別所　ええっ？（紫子の方を振り向く）

紫子、手を振りながら別所に近寄ってきて腕を絡める。

紫子　最近街コンのお仕事が忙しいからって、寂しかったんですよ。

別所　ひゃ！　は、離してください。（腕を振りほどく）

紫子　きゃっ（大袈裟に転ぶ）

江成　あっ、大丈夫ですか？！　（駆け寄って起こす）

紫子　ありがとう、優しいのね。（別所に見えないようにキスの口真似）

江成　（惚けたように）いえいえ、とんでもない。

別所　開催直前なので、遊んでる暇はないんです。今日は帰っても  
らえますか？

紫子　そんな。

別所　帰って、ください。

江成　すみません、ちよつと今、正念場で気が立ってるみたいなので。  
そうですね、お邪魔ですよね。帰ります。

紫子　（うつむいて応じない）

別所　（歩き出すが、振り返って）孝之さんがんば！　（奥に駆け出す）

江成　はー、素敵だなあ。僕の彼女と比べたら……（別所の顔を覗き込む）  
どうしたの、その顔。

別所

(背けて) どうもしません。

別所にスポットライト。

別所

ああいう人が好みなんだ……。

桜と葵、登場。スポットライト。

桜

上司のことが好き、だあ？

葵

ち、違うの、好きっていうか、気になるっていうか。

桜

あんた、何か勘違いしてんじゃないの。年上の仕事ができる男  
ってかつこよく見えるもんだから、のぼせてんのよ。

葵

そうじゃないよ。なんていうか、次の行動を的確に考えられた  
り、さりげなく他人に気を遣えたりとか、体調悪くなっても  
そんなの全然おくびにも出さないし。こういう大人になりたい  
な、って尊敬できるっていうか。

桜

婚約者いるんでしょ？ そんなリア充が、うちらみたいな

葵

モジヨを相手にすると思う？ 一線引かないと、あとが辛いよ。  
(無言でうつむく)

桜と葵去る。明転。

R & Bの音楽流れ始める。葵、玲子、修と登場。

江成

か、係長?! 何ですかその格好。

葵

りゆうのすけだよ、いいでしょ! じゃあ、そろそろ開場しよ  
うか。

玲子

では、男性の方、こちらに並んでおすわりください。私が、誕生日、血液型、今日のお天気で占った相性で女性には座っていただきます。

修

(江成) よし、あなたは厨房手伝ってくれ。

江成

ええ？ (別所に) さっきのこと、伝えておけよ。

別所

は、はあ……。

修、江成、玲子奥へ。

葵

さっきのことって？

別所

(顔を背けたまま) ゆ、紫子さんという方がいらっしやいました。

葵

え。

別所

事情を話すかどうか、一人では判断できなかったの、ひとまず帰っていただきました。

葵

そう。……また、こっちを向いて話してくれなくなったね。

別所

お、お綺麗な方ですね。

葵

ありがとうございます。

別所

お幸せに。(顔を見せないようにして去る)

葵

(無言で去って行く別所を見つめる)

暗転。

#### 第四場 (森山家一階)

天草ら男性、舞台に均等間隔で座る。

その後ろにそれぞれ、桜、紅葉、椿、晴臣が並ぶ。

天草  
調布  
葵  
大門

うわ……。  
何すか、今日ってコスプレ合コンだったんすか？  
いえ、その、占いコンです。  
コスプレ、むふおー！

それぞれのカップルの間を、葵と別所、見て回っている。  
調布と紅葉。

調布

ねえちゃん、なんでお面かぶってんの？ かっこいいね、袴姿！！

紅葉

これは新選組と言って……。

調布

俺も昔応援団でさ、長ラン着てたのよ、鉢巻き巻いて。似てるなあ。押忍！てな。

紅葉

……。

調布

ねえちゃんは子ども好きかな？ おれんとこのチビ、蔵人って言うんだけどさ。

紅葉

何？ それはもしかしてくさかんむりの蔵に人と書くのでは？ すげー、なんでわかったの？ ヨメが外国っぽくしたいとかで

調布

そういう名前になって……。

紅葉

いや、それは古来より日本に伝わる由緒正しき名前。  
そうなのか？ ねえちゃん物知りだなあ。

調布

二官八省の下、言うなれば天皇の執事に当たる蔵人所というものが……。

葵

あ、あそこ早速話弾んでるよ。  
意外ですね……。

別所

大門と晴臣。

大門  
こ、こんな若くて可愛いお嬢さんに会えるなんて、びっくりだよ。

晴臣  
ええ、そうですかあ？

大門  
見た目と違ってかなりハスキーなんだね。

晴臣  
ニューハーフかって、よく言われるです。

葵  
あそこも弾んでる。

別所  
いや、あれはハル……ハルコちゃん適当なのわかります……。

藤田と椿。

藤田  
そ、その服、ジュン・カバチタレを意識したデザインですね。

椿  
嘘、よくわかるね！ ほんとはこれ、自分で作ったの。

藤田  
か、カバチタレの生地はイタリア製だから。

椿  
そうなんだよね、だから高くって学生じゃ買えない。

藤田  
もっと、いい生地を安く売ってる店なら知ってる。

椿  
すごい、モデルさんだからファッションやっぱ詳しいんだ

ね！！

葵  
あれは？

別所  
……盛り上がってます。珍しい……。

天草と桜。

桜  
どうも初めまして……あっ！！

天草  
あ、あれ？ 君もしかして……一個下の学年にいたよね？

桜  
いえ、おほほほほ、気のせいですわ。

天草  
でも確か、俺の同級生と結婚してなかった？ 幼馴染なんだよ

ね、あいつと俺。

桜  
！！（立ち上がる）

天草　　　　　そういやあいつ、海外転勤から戻って来たって連絡もあつたな。  
桜　　　　　し、失礼します！　　（奥に駆け込む）  
別所　　　　　おねえちゃん！

別所と葵、桜の後を追う。晴臣、立ち上がって、天草に近づく。

晴臣　　　　　（天草の襟首を掴み）おいてめえ、桜さんに何言いやがった？！  
天草　　　　　えっ？

晴臣、天草を殴る。止めに入る調布。

大門　　　　　ええ？！　　ひえーっ！！

反対方向に走り去る大門。

調布　　　　　（晴臣に）おい、あんた、男だろ？  
一同　　　　　（晴臣を見る）

晴臣、何も言えず別所と葵の後を追う。  
暗転。

第五場（森山家二階、桜の部屋）

舞台奥、桜と別所と葵。遅れて晴臣が来る。

別所 おねえちゃん、ごめんなさい。高校の先輩だって知ってたけど、結婚してたとか知らないと思ってる……。

桜 あの人はねえ、あいつと幼馴染だったの。

別所 そんな……。

桜 そりゃ知らないよね、結婚式だって親族メインでやったし。

葵 結構仲良かった人なんだね。

桜 地元の街コン行くとこういうリスクはあるって、わかってたんだけどな。

別所 おねえちゃん……。

桜 いや、でも違うのよ？ 知り合いにこういう格好してるの見られて、気まずかったってことよ？

晴臣 嘘付けよ。

桜 え？

晴臣 あんた、全然忘れられてねーだろ、前の旦那さんのこと。

桜 そんなことない。

晴臣 じゃあなんで俺はいつつもいつつも、あんたに呼び出されて元旦那の話を聞かされるわけ？

別所 あ……。

晴臣 誰か好きになる度に、元旦那と比べてあの人はああだ、とか言うのを聞き続けてるわけ？

桜 だって、だってしょうがないじゃない！ 初めてつきあった人なんだよ？ 六年間もずっと一緒にいたの！

晴臣 別れてだって六年経ってるだろ？ 今あんたの隣にいるのは誰だよ。

桜、背中の羽を乱暴に脱ぎ始める。

晴臣

誤魔化さないでよ。

桜

誤魔化してなんか……。

晴臣

俺は、昨日より今日、今日より明日あんなの事が好きになる。

これからずっと、あのひとの六年間よりも、その後の六年間よりもそばにいたいんだ。

桜

駄目だよ。私、きつとまた試しちゃう。あいつの時みたいに。

晴臣

いいよ、試せよ。何年あんなの事見てると思ってるんだよ。

桜

ついこないだまで高校生だったくせに。

晴臣

そうだよ、ガキの思いなめんなよ。

桜

私より肌が綺麗な男って許せないし。

晴臣

じーさんばーさんになりや変わらないよ。(後ろから桜を抱きしめる)

別所

(葵に) 私たち、お邪魔ですね……。

葵

(晴臣を指して) お、男の人だったの？

別所

気づいてなかったんですか？

葵

男言葉で喋るキャラなのかなって。

別所

やっぱ係長、天然だ……。

葵

何、天然って。

別所と葵が去ろうとすると、江成が飛び込んでくる。

慌てて離れる晴臣と桜。

江成

係長！ 大変です、男性側が怒って、責任者出せって言うてます！

暗転。

第三幕 第一場 (森山家一階)

舞台中央に座っている、調布、天草、藤田。  
紅葉と椿、玲子と修が離れて様子を見ている。

調布

だから、責任者はまだかよって言ってんだよ！

玲子

申し訳ございません、私は単なる占い師なもので。

藤田

あの、僕、帰っていいですか。

天草

俺も……。

調布

おいおい、そんなわけにいかねえだろ、ハッキリさせない！

藤田

男性だったのは一人だけみたいだし。僕は別にもういいです。

天草

ああ。でも、こっつて森山さんちなんでしょ？ 妹さんがスタッ

フだから、姉妹揃ってサクラやらせたってわけじゃないよね？

椿

それは……！

別所と葵と晴臣と桜、やって来る。

別所

それは違います。(一礼して)この度は、誠に申し訳ございません。

一切の責任は私にございます。ただ、この事だけはお話させて

ください。森山家の姉妹は、些細な事がきっかけなんです、

昔からそもそも人とのコミュニケーションが苦手で、男性との

出会いもほとんどないままここまで来ました。私どもは、少し

見方を変えれば、少し勇気を出せばきつとすぐそばに生涯を共に

できる相手がいるのだと、知って欲しくて今回、この家族に参加

をお願いしたんです。彼女達も、最初はとも嫌がっていました

が、自分たちをまず見てもらうこと、さらけ出すことで相手にも

心を開いてもらえると説得して、参加を決意してくれたんです。

天草

要は、みんなオタクってこと？

別所

ま、まあそうです。

藤田

それは見ればわかりました。

葵 違います！

一同 (葵を見る)

葵 オタクだからって、モテないからって出会いを避けてたわけじゃありません。みんな、これ以上嫌われるのが嫌だった、誰かに去られてしまうのが嫌だったからですよ？！

修 そうだ。こいつらは、両親を亡くしてから、ずっと四人が離れないように生きてきた。他の関係でも、なるべく友達を作らず、人と関わらないようにしてきたんだ。そんなこいつらのことを、誰も非難する資格なんてないだろ？ 俺の、可愛い姪っ子どもの、一体何が悪いって言うんだよ！

椿 おっちゃん……。

調布 ちょーっと待った。今いい話御涙頂戴でまとめようとしてるけど、ズレてるだろ。ここの家のねえちゃんたちはいいとして、あいつ(晴臣を指差し)は何なんだよ？

葵 それは、僕から説明します。

調布 は？ ぼ、僕？

葵 今はこんな格好をしていますが、実は、私が別所なんです。

天草 どういうこと？

葵 うちの職場で、男女の中身が入れ替わるという不思議な事が起きています、私と(別所を指し)彼女が入れ替わったように……。 (誰か適当にいないかと探し、江成を連れて来る) 彼と、(晴臣を指し)ハルコさんの中身が入れ替わってしまったんです。(江成をつく)

江成 ええ？ は、はいそうです。私、実は中身がハルコなの！

桜 いや、それは流石に苦しいでしょ！！

調布 そうなのか……ってなるかバカ！ こいつ、声も体つきも男だったぞ！ 確かめてやる！ (晴臣に近づく)

玲子 あっ！ (片手を振り上げて晴臣に何か送る仕草)

調布 (晴臣の胸を掴む)

晴臣 キヤッ！ って、え？ (自分の胸を見る)

調布 ほ、本物だ……。

玲子 これで、信じてもらえたかしら。

調布 いや、でも……。

天草 論より証拠だよ。気が済んだら？

葵 今回の参加費は、後日返金させてさせていただきます。

藤田 入れ替わりというのは、ちょっとまだ納得できないのですが。

葵 申し訳ありません、そちらも調査して後ほどご説明させていただきます。  
い。

調布 あーもーいや、めんどくせえ。今日は帰る。

天草 (藤田に) じゃ、俺たちも……。もうちょっと普通の子と会いたかったな。

天草、調布、藤田、去る。頭を押さえふらふらとその場に倒れ込む別所。

葵 森山くん？！

暗転。

## 第二場（森山家一階）

中央テーブルに葵、スマホをいじっている紅葉、椿。

スーツ姿の桜が出て来る。

桜 じゃ、行って来るから。

椿 こんな時間から行くの？

桜 依頼人との打合せだから。あんたたちもいつまで引きずってんの？ もみは学校、椿も予備校行きな。

椿 さくねえは心配じゃないの？

桜 何が。

椿 あおねえ倒れて、もう三日だよ。そりゃ、昔からストレスで熱は出してたけど。

桜 心配に決まってるでしょ。でも私は仕事に行かないといけないの、大人だから。

紅葉 (スマホを置いて) やはり、無理があったのだ。我々喪女が街コンに出ようなどと……。

椿 あの人以上に友達になってあげてもいいかなと思ったんだけど。ほとんどぼっちって言ってたし……。

葵 (土下座) 申し訳ない。全て、私の責任です。

紅葉 (慌てる) いや、頭をお上げ下され。

椿 別に謝ってほしいわけじゃないから。

葵 (力なく椅子に戻る)

桜 そうね、あんたのせいね。葵がこんな事になったのは、あんたが街コンを強行したからに他ならない。

椿 さくねえ！

紅葉 この者を責めてもどうしようもあるまい。

葵 (無言)

桜 いいえ。あの子に何かあったら、何らかの法的措置を取らせてもらうことになるかもしれないわ。あの子がね、あんたのためにどれだけの事を頑張ってきたと思ってるの？ 対人サービスなんて苦手中の苦手なのに、仕事とあんたの話を、それはもう楽しんでるよ。婚約者がいるって知ってるのに。辛そうなのに、楽しそうなの。恋って、そういうものだって、私も思い出せるくらい。

葵 ……どのようにでも、責任を取るつもりです。

桜 (言いたいことを押さえるように) 行ってきます。夕飯は要らないから。(足早に出て行く)

椿 (取り繕うように) そういえば、あの時の、ハルの胸ってなんだっただの？ いつものパッドじゃないの？

紅葉 いや、リア充が本物だとぬかしたからには本物なのであろう。

晴臣、走って登場。

晴臣 おい、あの古いおばさんどこだよ？！

紅葉 噂をすれば。

椿 玲子さんなら、おっちゃんデート中。

晴臣 胸が、元に戻らないんだけど！！ あのおばさん、おれに何かしたんだ。

椿 ええっ？！

紅葉 ほー、それはそれは。(立ち上がって晴臣の胸に触ろうとする)

(よけて) セクハラ！

紅葉 本物とやらの手触りを知りたくてな。

晴臣 自分のがあるだろ！

椿 さくねえにすれ違わなかった？

晴臣 見かけたけど合わす顔がないよ、こんな体じゃ！

紅葉 桜より大きくなっているな。

椿 そりゃだめだねー。

葵 (立ち上がる) ちょっと、葵さんの様子見に行って来ます。

椿 あ、うん。

葵去る。

舞台端にスポットライト、別所が寝ているところへ、葵やってくる。

別所の様子を近くまで寄って心配げに見守る葵。

葵 街コンが成功すれば、元に戻れると思ったんだ……。そうだ、ジヨ

ーカー！(奥へ)

暗転。

第三場（森山家前）

葵、奥から歩いて来る。  
後ろから紫子登場。

紫子 ちよつと、あんた。さっき、孝之さんちから出て来たわよね。

葵 （振り向いて）あ、紫子さん。

紫子 最近ずっと彼と連絡が取れないし、役場にも来てないみたいだし、家に行ってみたのよ。って、なんで私の名前知ってるの？

葵 あ。そ、それは、私は職員で、係長に荷物を取ってくるように頼まれて……。

紫子 荷物って、ほとんど何も持ってないじゃない。まあいいわ。婚約中でも不貞行為は不貞行為よね。

葵 そんな、僕たちはまだ……。

紫子 まだ？ あんたが孝之さんのこと好きなわけ。一方的に、言い寄ってるだけなの？ あの人が、あんたみたいなデブス、相手にするわけないじゃないの。彼はね、この私にメロメロなんだから。違う、彼女は……。

紫子 孝之さんはどこ、会わせなさいよ！

葵 ……係長は、今は面会謝絶です。

紫子 は？ 何それ、なんで私のところに連絡が無いわけ？

葵 急なことで、予断を許さないんです。

紫子 それならなおさら知らせるべきでしょう！ 婚約者は私なのよ！ ああ、でもどうしよう、まだ籍入れてなかったのに！

葵 え？

紫子 今あの人に何かあったら、私には一円も相続がないってことでしようが？！

葵 え……。

紫子 とにかく、どこにいるのか教えなさい。ああ、その前に家の鍵貸して。

葵　　なんでですか。

紫子　判子がいるのよ、婚姻届作らないと。

葵　　き、君は……。

紅葉と椿、登場。

椿　　（葵に）どしたのー、お帰りなさい。

紅葉　（顔を隠し）椿、ぬかるな！　そこなおなごはリア充じゃ！

椿　　え。

固まる二人。紫子、紅葉たちを上から下まで眺めて鼻で笑う。

紫子　まあ、あなたの妹さん？　揃いも揃ってイケてないわね。

葵　　違う！　この子たちは、普通の女の子だ。不器用だし、変わって

るし、話すのもうまくない。でも、この子たちにはあたたかい

血が流れてる。人を、家族を愛する優しい心がある。君とは、

大違いだ。見た目が何だ？　背の高さなんて骨だし、胸なんて

ただの脂肪だ。もう二度と君の顔は見たくない。

紫子　はあ？　その台詞、そのままそっくり返すわよ。私と、孝之さん

の目の前から消えて。

修と玲子、登場。

修　　お、なんだなんだ。店の前で騒ぐんじゃねえよ。（紫子に）どちら

さん？

紫子　あんたなんか言う必要なんてないわ。

玲子 ゆかり？ あんた、ゆかりじゃないの？

紫子 え？ ひ、人違いですわ。

玲子 そんなはずない。あんた、原宿で一緒に占いしてたゆかりでしょ。お互い下積み長かったじゃない。なんかまた、一段と若作りになったわね？ 今いくつって言うてんのよ。

修 知り合い？

玲子 えーえ、三十年前からね。小学校からの同級生だもの。

葵 三十年？ 君、確か26って……。

椿 そういえばワイドショーで見た占い師に似てる。タレントを洗脳して休業に追い込んだやつ。

紫子 あ、あの、私やっぱり失礼しますね。おほほ、ごめんあそばせ。

修 (すごい勢いで走って逃げる)

修 凶星だったな。

玲子 最近顔見ないと思ったら。

椿 私、また余計な事言っちゃった……？

修 (椿のところへ行き頭をなでる) いや、お手柄だったぞ。

椿 そっか！

嬉しそうに椿、奥へ。紅葉も一緒に。

葵 (修と玲子に) ジョーカーを取って来ました。

修・玲子 (うなづく)

暗転。

第四場 (森山家二階、葵の部屋)

葵にスポットライト。

葵

ずっと、変な夢を見ていた。みんなでババ抜きをしている。でも現実と違って、神経衰弱みたいになって、ルールはジョーカーを2枚引いた人が勝ち。そして、何回やっても私がババを引く。おかしいねー、葵強いねずっと勝ってるねって、みんな、笑ってくれる。私も笑う。だって、ジョーカーは切り札なのよ、オールマイティなの。他人の決めたルールで、なぜ勝ち負けを決めないといけないの？ 私の勝ちには、私のルールで決まるはず。私の価値も、決めるのは私のルール。

スポットライト消える。

明転、舞台中央に別所が寝ている。その脇にはトランプの山。周りに桜、椿、紅葉が座っている。葵、修、玲子登場。全員で別所を囲むように座る。桜、葵に目で合図する。ジョーカーを出して、トランプの山の上に置く葵。すると、トランプが一斉に宙に舞い上がり、一同が呆気に取られる中、葵が倒れる。

桜・修

葵！

椿

あおねえ！

別所、目を覚ます。

椿

(別所に) あおねえ！

桜

違うでしょ！ あれ、違わないか。

別所

あれ、今、トランプが、襲ってきませんでした？

紅葉  
別所

係長殿だな。

そうだ、葵くんは？（葵に近づくと）葵くん、どうして目を覚まさないんだ？ 君の大好きな家族が、こんなにも心配してるよ。僕も……。君の家族と一緒にあって、君を待ってる。君が、もう一度僕の目を見てくれるようになるまで、うん、僕は、ずっと君を待つよ。

修ら家族、驚愕の表情で別所を見る。

椿

これは、あのパティーンだね。

修

パティーンって何だ。

玲子

眠り姫、ってどこかしら？

修

（立ち上がり奥に向かって行く。途中で振り返り、一同に手招き）

桜

何よ。

修

衆人環視じゃやりにくいだろう。

玲子

それもそうね。

次々と、立ち上がり奥に向かって行く。

別所

これまで、君と入れ替わって、いろんな事を体験した。君は僕とは全然違う世界に住んだ。でも、もうそんなことはない。

君の世界は、僕の世界だ。君の家族も、僕の家族……にしてみらいたいんだけど、いいかな？ その……。 （顔を近づける）

葵

上がり！（飛び起きる）

別所

うわ！（後ろにこける）

葵

あれ、係長？ それとも鏡かな？ （鏡か確かめようとする

別所

マイム）

別所

いや、おはよう、葵くん。

葵 え、係長が喋ってる？ つてことは……私は私？（途端に顔を隠す）

別所 気分はどう？

葵 悪くは、ないです。ババ抜きで連勝する夢見てて。でも、なんでここに……。

その瞬間、桜たちが飛び出して来る。

桜 葵！ あー葵良かったよ！！

別所を押しつけるようにして、葵に抱きついたりする姉妹たち。  
後から修と玲子がやって来る。

修 なんだよー、もう少しでいいところだったのに！ 男なら肝心

などこ決めるよな！

別所 は、はあ、すみません。

輪の中に入って行く修とそれを見ている別所。

玲子は、静かに去って行く。

暗転。

## 第五場

晴れ着を着た紅葉と椿。紅葉はお面をかぶってスマホをいじっている。

椿 もみちゃん、今日ぐらいやめたら？

紅葉 そうは行かぬ、今日は天下分け目の関ヶ原……。

椿 もー、そろそろ式が始まっちゃうよ！

紅葉 椿もやってみればよいのだ。あの、アンリとか申す者もわがギルドに入っておるぞ。

椿 は？ いつの間に？ てか、ズルい！

紅葉 いや、だからやってみればと……。

修、入って来る。

修 おいお前ら、何してんだよ！ つーか、新婦はどこ行った？

椿 え？

紅葉 先ほどそちらへ向かったと思ったのだが……。

ウエディングドレスの晴臣、入って来る。

晴臣 桜は？

椿 え、もう行ったんじゃないの？

晴臣 いねえんだよそれが。

修 お前なあ、それだよそれ。新郎の方がウエディングドレス似合っちゃうんじゃない、誰だって逃げ出すだろうが。

晴臣 えー、それはないですよ修さん、いえ叔父さん。これは俺の夢だったんで。

修 だったら、とにかく探し出して説得するしかないだろうが。

晴臣 ……はい、探します！（奥へ）

修 ったく、あんなナヨナヨした女みたいなの、桜はどこが気に入ったんだか。

椿 ちっちゃうち、おっちゃん、見た目で判断しちゃダメだよ。

紅葉

晴臣こそは真田幸村様や超雲殿にも匹敵する真の漢！  
へっ、わかんねえよ。

修

自分が逃げられたからって八つ当たり？

椿

う、お、思い出させるなよ！ 玲子さーん！（泣く）

紅葉

本人も謝っていたではないか。あんな事があっては……。

椿

最後にハルの胸だけは戻していったみたいね。おっちゃん、  
私がずっと側にいてあげるから！

修

（驚いて顔を上げ）ええ？

そこへ、葵が振袖姿の桜を連れて来る。

葵

なーに、おじちゃん、早速花嫁の父やってるの？

修

ち、ちがわい！ 父親じゃねっつの。（目をぬぐう）

椿

わー、さくねえ、綺麗！！

紅葉

前回程の感慨はないにしろ、やはり元レイヤーの真骨頂。

桜

そこ！ 余計なこと言わないの。

葵

ハルどこ行ったの？

椿

さっきさくねえを探しに行ったよ。

桜

はあ？ とにかく会場行くわよ。おっちゃん、腕！（手を伸ばす）

修

わかってるよ。（腕を組む）これで最後にしろよ、後がつかえて  
んだからな。そもそも、バージンロードを2回も歩く奴がある  
かよ。

桜

一世一代の晴れの日だったのに、なんて言い草よ！（修につか  
みかかろうとする）

葵・椿

まーまーまーまー！（桜と修を押さえる）

桜と修、舞台中央、奥に進む。椿・紅葉・修もそれに従う。

奥が明るくなると、手前に別所、藤田、壇上に晴臣がいる。

挨拶する一同。

椿 (藤田に) なんているの？

藤田 そ、そりやギルドリーダーのおめでたいことだから。

紅葉 殊勝なことだ。

別所 (修に) この度は、おめでとうございます。

修 (足を停め) ん、あんがとさん。あんたもおめでとう、独立。

葵の事も頼むぜ。

別所 は、はい。ありがとうございます。

桜 おっちゃん。

修 はいはい。

桜と修、壇上へ。修、腕を離す。

桜と晴臣、腕を組む。その脇に、葵と別所立つ。

葵 皆さん、本日は新庄晴臣、森山桜の結婚式においていただきまして、誠にありがとうございます。司会進行を務めさせていただきました。司会進行を務めさせていただきます。B & M コンサルティングの森山葵です。

椿 (紅葉に) あおねえ、なんだか変わったね。

葵 それでは皆様、ご起立……すみません、もう起立されてますね。

修 司会、しっかりしろー！

一同 (笑いが起こる)

椿 やっぱ変わってないか。

葵 (咳払い) では、ここにいらっしやる全ての皆様に証人となっていただき、二人の誓いをお聞きいただきます。(桜と晴臣に原稿を渡す)

桜・晴臣 私たち、森山桜と新庄晴臣は、今日より夫婦となって、生涯共に歩む事を誓います。年の差もバツもありますが、これからずっと……(F.O)

葵を見ている別所。

葵、それに気づいて微笑みながら見返す。

ゆっくりと暗転。音楽。

(了)